

フレンドリー

FRIENDLY



第14回ドイツ・シュツットガルト市学生訪問団受入事業

令和7年10月11日～18日(7泊8日) 高校生13人 引率者2人



大垣市表敬訪問(市役所にて)



日本文化(茶道)体験(スイトピアセンターにて)



バレーボール大会参加(大垣北高等学校にて)



大垣城



船町湊



歓迎会(ソフトピアアジアセンターにて)

- 10/11 来垣、大垣城見学、ホストファミリーと対面式
- 10/12-13 ホームステイプログラム
- 10/14 奥の細道むすび地記念館見学、三輪酒造見学、勾玉作り体験、歓迎会
- 10/15 岐阜市内見学
- 10/16 関ヶ原古戦場記念館、屋敷大塚古墳見学、日本文化体験(浴衣着付け・茶道)
- 10/17 市表敬訪問、勾玉作り体験、大垣北高等学校訪問
- 10/18 ホストファミリーとのお別れ式、関西国際空港から帰国

No. 101
2026
MARCH

第10回大垣市中学生ベルギー・ナミュール市研修派遣事業

令和7年9月13日～23日(11日間) 中学生10人、引率者3人

日程表

9/13	大垣出発、関西空港よりベルギーへ。ブリュッセル到着
9/14	ブリュッセル見学、その後ナミュールでホストファミリーと対面
9/15	Champion中高一貫校訪問
9/16	IATA中高一貫校訪問、ナミュール市内散策
9/17	ナミュール城砦と市役所訪問
9/18	ブリュージュとオースデン訪問
9/19	ルーヴァン・ラ・ヌーヴ訪問、さよならパーティー
9/20	ホストファミリーと過ごす
9/21	ホストファミリーと過ごす。夕方ナミュールを出発しブリュッセルへ
9/22-23	ブリュッセル空港から帰国。午後大垣到着

ナミュール市役所



土屋 遼人
(赤坂中学校3年)

フランス語で自己紹介をしました。不安と緊張がまじりあった気持ちでいっぱいでしたが、自分なりに上手くできたと思えたので良かったです。日本ではなかなかいない、女性の方が市長さんでびっくりしました。そんなところに日本との文化の違いを感じました。



▲ナミュール市長(前列左から4人目)、ベルギー大使(前列左から3人目)らと記念撮影

▼校庭でお昼ごはんを食べていたら
たくさんの人に囲まれました!!

Champion中高一貫校



小久保 玲那
(赤坂中学校3年)

最初に参加した授業は英語です。タブレットやスマホを使ってクイズをし、ベルギーの生徒と2人でペアを作って協力しました。このクラスの生徒さんがベルギー紹介プレゼンもしてくれました。スライド一枚一枚がとてもおもしろい工夫がしてあって、笑いが絶えない時間でした。



▲大垣紹介のプレゼン



▲ベルギーの生徒と打ち解けるきっかけになった「新聞じゃんけん」



▲Champion学校の校舎



▲物理の授業と一緒に実験



▲本場ベルギーのチョコレート作り体験

午後はホストシスターやホストブラザーとペアを組み「新聞じゃんけん」から始まりました。最初は少し緊張した雰囲気でしたが、じゃんけんを重ねるうちに笑い声が広がり、会場全体が明るくなっていきました。この活動を通して、言葉が違って笑顔や楽しむ気持ちで通じ合えることを実感しました。



定井 千佳
(北中学校2年)

IATA中高一貫校

IATA中高一貫校には、たくさんの学科があり、私たちは木工、印刷、ジュエリー、写真、時計作りを専門とする学科を見学しました。ジュエリーの学科では、金属の板に絵を描いて、それを生徒さんが専用の工具を使って切ってくれました。手作業で削った後、専用の機械を使ってピカピカにしてくれて自分だけのネックレスができ、とても思い出に残る体験でした。



渡邊 都乃
(東中学校2年)



自分だけの思い出の
ネックレスができました!!



▲ベルギーの生徒さんに教えてもらいながらネックレスを作りました

ナミュールの祭り

「Échasseurs namuroi(竹馬合戦)」と呼ばれる祭りがあります。1411年に始まったとされ、2021年にユネスコ無形文化遺産となりました。竹馬合戦は、2メートルほどの大きな竹馬に乗り、2つのチームに分かれて、蹴ったり押し合ったりして落とします。周りにいた人全員が応援し、熱狂し、一つになっていました。この祭りは地域の人たちの心をつなぐ役割を果たしているのだと感じました。



中島 悠汰
(南中学校3年)



▲大勢の観客が見守る中の白熱した戦い

ブリュージュ

9世紀から始まり、大垣と同じ「水の都」と呼ばれています。街中は至る所に運河が見え、とっても素敵でした。「ヨーロッパといったらどんな街並みを想像する!？」と聞かれたら、私は今後ブリュージュの風景を思い浮かべてください!! 例えば一面石畳だったり、馬車が走っていたりするところです。



上田 なつ
(赤坂中学校3年)



◀運河を巡る
ボートツアー



▲ブリュージュ近くのビーチで



▲ブリュージュのシンボル「鐘楼」

ブリュッセル

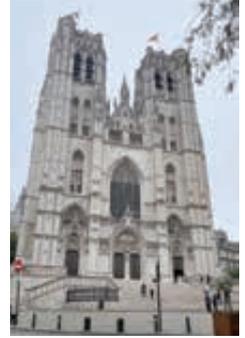
メインの広場であるグランプラスです。視界いっぱいに広がる美しい景色、この目で見たあの圧巻の景色は、間違いなく私の人生の財産の一つとなりました。グランプラスで感動した後はサンミッシェル大聖堂に行きました。ここでもまた壮大な建物に心を奪われて圧倒されました。中に入ると外の空気とは何か違う神秘的な静寂が大聖堂全体を覆っていて、別世界に足を踏み入れたようでした。



長屋 杏理
(南中学校3年)



▲世界遺産、グランプラス



サンミッシェル大聖堂▶

ホストファミリーとの思い出と研修を通して



谷村 優
(興文中学校2年)

私が強く実感したことは、言葉そのもの以上に「相手を理解したい」という思いと、耳を傾ける誠実な姿勢こそが何よりも大切だということでした。わからない言葉もわずかな補足やジェスチャー、表情を交えるだけで通じ合い、互いの思いが伝わった瞬間の喜びや感動は、心に深く刻まれています。言葉が違って、思いやりの心があれば真のコミュニケーションは必ず成立する—そんなことを身をもって実感しました。



自分の人生が変わったと言っても過言ではないほど、様々な思い出が出来ました。現地の学校での思い出、みんなで行ったナミュール市内やブリュージュなどでの観光、そしてホストファミリーと過ごした時間などです。ベルギーで様々なことを学び楽しんでおくことができ、行ったのはベルギーだけですが、世界中を知れた気がしました。



ホストファミリーのみなさん、ありがとうございました!!



▲さよならパーティーで
感謝を込めてプレゼン披露

◀ナミュールを
流れるサンプル川と
ナミュール城砦



ラングレス 志士
(赤坂中学校3年)



佐藤 巨
(江並中学校3年)

こちらから派遣事業報告書
(全37ページ)をご覧いただけ
ます。



団長 中村 康男
(東中学校校長)

この研修を通して、大垣とナミュールの交流のかけ橋となって活躍するとともに、それぞれが成長を実感し、未来への希望を抱くなど、見事にその目的を達成することができました。



総務 深谷 美穂
(赤坂中学校教諭)

生徒たちは、言葉の壁を越えて自信をつけ、人の温かさを知り、自分の世界を大きく広げました。私にとっても、「英語を教える」という枠を超えて、「心を伝えること」の尊さを改めて学ぶ機会となりました。



総務 吉安 三恵
(国際交流協会職員)

継続した交流には「交流への理解者」がどれだけいるかが大切だと強く思いました。今回の交流を通して、両国の生徒、その家族、先生方など将来の交流を支えてくれる理解者がまた増えました。

第7回大垣市高校生米国オレゴン州 ビーバートン市、ユージーン市研修派遣

令和7年10月9日～18日(10日間)高校生10人、引率者3人

日程表

10/9	大垣出発 ---日付変更線--- ビーバートン市到着
10/10	コロンビア川渓谷(マルトノマの滝他) ユージーン市へ移動し、ホストファミリーと対面
10/11-12	ホームステイプログラム
10/13-14	高校訪問
10/15	ビーバートン市役所、警察署、ポートランド
10/16	高校訪問、オレゴンコースト
10/17	オレゴンを出発し、日本へ
10/18	帰国、大垣到着

高校訪問

1日目:ホストシスター・ブラザーの一日を体験
2日目:日本語クラス

【チャーチル高校】日本の高校のように、クラス単位で受ける授業ではなく、授業によって異なる学年の生徒たちが、毎回決められた教室に集まって受けていた。学年は異なっているが、授業中の交流などは活発に行われているところが素敵だった。また、授業は日本のように教科書とノートのスタイルではなく、パソコンで完結するスタイルだった。提出物も連絡も全てパソコンで行うため、どの生徒もとてもタイピングが速く、使いこなしていた。



高橋 凧咲
(大垣北高校1年)

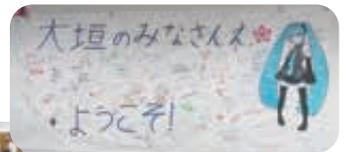
◀ホストシスターの
授業に参加



▲学校生活についてのプレゼン



◀日本語クラスの
生徒と交流



◀ランチタイムの
持ち寄りパーティ
で交流



吉田 珠里
(済美高校2年)

【サウスユージーン高校】印象に残っている授業は社会学です。その授業では、環境問題と働く人についてディベートを行っていました。そこでは、挙手をして積極的に意見を述べていたり、友達と相談して意見を考えたり、そのような時間が先生から与えられていなくても、生徒だけで話が進んでいく授業を体験しました。学校訪問を通して、アメリカの生徒たちは、たくさんの選択肢があり、自分を表現する力が高く、自ら考え行動すること、何かを伝えることができるようになりました。

出発式

出発式では、市長さんや議長さんなどたくさんの方々がお見えになりました。緊張する気持ちもありましたが、私は団員として自信をもって式に参加しました。式ではオレゴン州に行って何をしたいのか、何を学びたいのか、それぞれが探求テーマを発表しテーマについてそれぞれいろいろなお話をしました。



▲スイトピアセンターにて



石田 琉生
(岐阜工業高等
専門学校2年)

ビーバートン市役所

ビーティー市長を訪ねると、あたたかい歓迎とともに部屋から一望できるビーバートンの景色を見せてくださった。その日はオレゴンでは多くない快晴。自然にあふれた、とても綺麗なビーバートンの景色を見ることができた。市庁舎内を案内してもらった。職員にとって働きやすい環境になることを意識した様々な部屋の紹介をしていただき、特に議会の行われる部屋では、その席に実際に座るといふ貴重な体験をした。



吉田 和奏
(大垣北高校1年)



▲ビーバートン市のビーティー市長(後列左から4人目)と

ポートランド

印象に残っていることの一つは、初めて路面電車を利用したことです。道路の真ん中を電車が走る光景がとても新鮮でした。停留所も分かりやすく、料金の支払方法もシンプルで現地の人々の生活に溶け込んでいる交通手段なんだと感じました。街を歩いていると、信号機に秒数が表示されているのが印象的でした。あと何秒で青になるか、あるいは赤になるかわかるので、とても便利だと感じました。観光客にとってもわかりやすく、安全に渡れるように工夫されているのが良かったです。



金子 聖織朱
(大垣北高校1年)



▲秒数が表示
されている信号機

ホームステイ



お世話になった
ホストファミリーのみなさん

本研修を通じて、私が痛感したことは、自分からコミュニケーションを取ろうとする姿勢や英語や文化を知りたいという気持ちを積極的に伝えることが最も大切だということだ。きれいな文章、正しい文法で話すことは到底できなかった。しかし、現地の人たちは私が何を話したいのか一生懸命に感じ取って、根気よく話しかけてくれた。この経験を通じて知った、リアルな英語や文化の違いを今後たくさんの人に伝えたい。そして、言語や文化の違いを超えて人とつながり、そのつながりを広げていける人になっていきたい。



大久保 衣織
(大垣東高校2年)

ホームステイ中特に感じたのは、アメリカの人は自分の気持ちをはっきりと伝えるということです。「どっちがいい?」と聞いてくれた時、「んー」と迷っていると、「YesかNoをはっきり言いなさい」とどちらの家族にも言われました。また、会話の途中では、相槌や反応を入れたりして、自分の感情をさらけ出しているところがおもしろいなと感じました。内気な私が英語で自分の考えを伝えたことは、大きく成長できた場面だと感じています。



伊藤 夢那
(大垣商業高校2年)



▲ホストシスターたちと一緒に料理作り



ジャック・オランタン
作ったよ!!



私の探求テーマ



稲川 七瀬
(大垣北高校2年)

【オレゴンの福祉制度】低所得者の生活を守るための制度が整っています。例えば、「オレゴン・ヘルス・プラン」という医療保険制度です。収入の少ない人でも無料または低料金で医療を受けることができる制度や、食料支援制度、また職業訓練や教育支援まであり、単に「お金を与える」だけでなく、人々が自立できるように支援する制度が特徴です。個人を尊重し人権を重視する社会であること、また地域住民のつながりを大切にす文化だと考えられます。

【価値観の違い、考え方の違い】授業中にたくさん「自分の考え」を口にしていたことに衝撃を受けました。アメリカの高校は、授業中に積極的に挙手をして先生に質問をしていました。ホストシスターに「間違っていたら恥ずかしいかと思うの?」と聞くと、「なんで恥ずかしいかと思う?分からない方が恥ずかしいよ」とはっきり述べてかっこいいと思いました。アメリカの生徒から学んだ「前向きな考え」を大切に、周りの視線を気にせずに多くのことにチャレンジしていきたいです。



小川 恋寧
(大垣日本
大学高校2年)



【ごみ問題】授業の中で、生徒の一人が「ポイ捨てをなくしたり、ごみを分別することで環境をきれいにすることが、私たちのこころを美しくすることに直結する」と言っていたのが、とても印象的でした。単なるごみの分別ではなく、人と自然との関係性、そして「自分がどう生きたいか」という根本的な問いにもつながりました。「考えること」「語り合うこと」そのものが環境を守る第一歩だと感じました。ホストファミリーの家庭でも、ごみの分別や堆肥づくりが日常的に行われていました。環境への配慮が生活の一部になっていることを実感しました。



布施 柚季
(大垣北高校1年)

こちらから派遣事業報告書
(全37ページ)をご覧ください
いただけます。



団長
平野 宏司
(国際交流協会理事)

掲げたスローガンは“Be an American!”(アメリカ人たれ!)。異文化の内側に飛び込み、行動様式や価値観を一度そのまま体験することでこそ、多様性を受け入れる心が育つ。彼らが戸惑いながらも挑戦し、一つひとつ吸収していく姿は、まさに国際人としての第一歩であった。



総務
杉崎 壮芽
(大垣北高校教諭)

10名の団員が10日間得た経験は、きっと今後の成長の糧となり、加えて、滞在中に関わったオレゴン州の生徒も、大垣を含め日本との関わりを深めてくれると信じています。そして、今回の派遣に参加した10名の団員の生徒の今後の活躍に期待しています。



総務
吉安 三恵
(国際交流協会職員)

団の目標は「感謝の気持ち、つながる心」「TRY」一。訪問できることへの感謝、出会う人々と心がつながるような時間を過ごしたい、臆することなく挑戦し続ける。この目標を元にたくさんの方に挑戦し、多くの学びを得たいと思います。

国際理解ワークショップ「ペルー編」

令和8年2月8日 スイトピアセンター 料理実習室 参加者：23人

海外の食文化紹介を通して、日本人と外国人が交流するイベントを行いました。大垣市には51か国の国籍の約7,000の方が暮らしています。ペルーは10番目に多く、133の方が暮らしています（令和8年2月末現在）。大垣市内の企業で働くペルー出身の野原メリッサさんを講師に迎え、ペルー料理「パパア ラ ワンカイナ」作りに挑戦しました。日本人16人、ブラジル4人、ベトナム2人、ペルー1人が参加し、楽しく会話をしながら、グループで協力して作ることができました。講師との交流に加えて、参加者同士の多文化交流もでき、楽しんでいただけたようです。



▲グループで楽しく料理作り
(写真中央が講師の野原メリッサさん)



▲ゆでたジャガイモに、にんにく、黄とうがらし、たまねぎ、牛乳、チーズなどで作った少しピリ辛なソースをたっぷりかけた「パパア ラ ワンカイナ」とペルーの代表的なジュース「インカコーラ」。冷たい前菜料理でレタスの上に盛り付けます。

《ペルー紹介（一部抜粋）》

- 人口は約 3,400 万人で、そのうち約 1,000 万人が首都リマに住んでいる。
- ジャガイモの原産地はペルーで、種類がとて多く 3,000 種類以上もある。
- ペルーは南米でもっとも古い日本人移住の歴史（1899 年移住開始）があり、約 20 万人の日系社会がある。

インカコーラで「かんぱーい!!!」



本事業は、(公財)岐阜県国際交流センターの助成金で実施しました。

ボランティアの集い

令和8年3月1日 スイトピアセンター スイトピアホール 参加者：19人

今年度は「災害」をテーマに開催しました。岐阜県外国人防災リーダーの登田 アンナ 恵美子さんによる「外国人目線での防災」と題した講演、NPO法人避難所サバイバルチーム代表の藤井 高将さんによる「避難所サバイバルカードゲーム」の体験、そしてボランティアの方同士の交流会を開催しました。

ブラジル出身の登田さんからは、「ブラジルでは干ばつや豪雨災害はあるが地震がないため地震に対する知識や経験が少ないこと、災害時に使われる言葉が難しいため『やさしい日本語』やピクトグラムなどを使うと伝わりやすい」という話がありました。

また、「避難所サバイバルカード」は、「足を挫いた」などの応急処置にどんな日用品が使えるかを学べるカードゲームで、楽しく学びました。



▲講演「外国人目線での防災」



▲「避難所サバイバルカードゲーム」の体験



▲講師の登田 アンナ 恵美子さん(左)と藤井 高将さん

ボランティア感謝状

令和7年4月1日現在で、15年以上当協会の国際交流ボランティアとして登録されている方にボランティア感謝状を贈呈いたしました。ありがとうございました。今後ともよろしくお願い致します。

名和 保夫様



▲事務局にてお渡ししました。

令和7年度を振り返って

【国際交流・国際理解事業】

《フレンドリーシティ派遣事業》

- ✳️ベルギー・ナミュール市中学生研修派遣
(9/13～9/23 中学生10人、引率者3人)
- ✳️アメリカ・ビーバートン市、ユージーン市高校生研修派遣
(10/9～10/18 高校生10人、引率者3人)
- ✳️中止 中国・邯鄲市小・中学生研修派遣

《フレンドリーシティ受入事業》

- ✳️ドイツ・シュツットガルト市学生訪問団受入
(10/11～10/18 高校生13人、引率者2人)
- ✳️中止 中国・邯鄲市学生訪問団受入

《地域国際交流事業》

- ✳️国際理解ワークショップ
 - ・パキスタン編 (8/31) 参加者：22人
 - ・ペルー編 (2/8) 参加者：23人
- 《(公財) 岐阜県国際交流センター助成事業》

《国際交流ボランティア活動推進事業》

- ✳️日本語学習支援ボランティア講座
 - 第1期 (7/27、8/3、17、24、31 【全5回】)
受講者：23人
 - 第2期 (1/18、25、2/1、8、15 【全5回】)
受講者：13人
- ✳️ボランティアの集い (3/1) 参加者：19人

《民間国際交流助成事業》

- ✳️助成事業：3団体3事業

《外国語基礎会話講座事業》

- ✳️英語基礎会話講座 (10/5～11/28 【全8回】)
受講者：5人
- ✳️ポルトガル語基礎会話講座 (10/5～11/23 【全8回】)
受講者：9人
- ✳️中国語基礎会話講座 (1/11～3/1 【全8回】)
受講者：12人
- ✳️韓国語基礎会話講座 (1/24～3/21 【全8回】)
受講者：13人



▲海外研修派遣団員の報告会



▲中国語基礎会話講座

《海外事情紹介事業》

- ✳️海外研修派遣団員の報告会
 - 中学生派遣：12/13 参加者：46人
 - 高校生派遣：12/13 参加者：36人

《国際相互理解事業》

- ✳️事業記録写真等の展示
(スイトピアセンターフレンドリーフロアにて)
- ✳️広報事業
 - ・機関誌「フレンドリー」発行 (9月、3月)
 - ・ホームページによる広報：随時更新中

【多文化共生事業】 《地域在住外国人支援事業》

✳️地域在住外国人の日本語学習支援

- ・ボランティアによるマンツーマン方式の日本語学習支援
学習者数：79人、ボランティア数：45人 (2月末現在)
- ・にほんごおしゃべりルーム (毎週日曜日)
- ・日本語教室
 - ・レベル1 (7/13～3/22 【全30回 (3期)】)
受講者：計58人
 - ・レベル2 (7/13～3/22 【全30回 (3期)】)
受講者：計49人
- ・やさしい日本語セミナー【新規】 (3/15)
参加者：14人
- ・外国人児童プレスクール (大垣市受託事業)
(4～3月) 参加者：53人

✳️地域在住外国人のための相談窓口の設置

- ・相談窓口 [ポルトガル語、中国語、英語]
- ・行政書士による行政手続き相談 (毎月第1日曜日)
- ・ポルトガル語によるこころの相談 (毎月第2日曜日)
- ・弁護士による法律相談 (毎月第4日曜日)
《法テラス岐阜共催》

✳️地域在住外国人のための行事・講座

- ・和服体験 (月1回) 参加者：8人
- ・神輿体験 in 十万石ふる里まつり (10/12)
参加者：23人

✳️ブラジル人等子弟日本語学習支援事業

- ・日本語指導者派遣 (学校法人HIRO学園への派遣)
(毎週火曜日)



▲マンツーマン方式の日本語学習支援



▲外国人児童プレスクール



▲神輿体験 in 十万石ふる里まつり

令和8年度 事業計画

【フレンドリーシティ派遣・受入事業】

- ✳️大垣市小・中学生研修派遣(オーストラリア・グレンアイラ市)(8月)
- ✳️大垣市中学生研修派遣(ドイツ・シュツットガルト市)(9月)
- ✳️大垣市高校生研修派遣
(アメリカ・ビーバートン、ユージーン市)(10月)
- ✳️ベルギー・ナミュール市学生訪問団受入(5月)
- ✳️中国・邯鄲市学生訪問団受入(7月)

【地域国際交流事業】

- ✳️多文化紹介講座(8月、1月)

【国際交流ボランティア活動推進事業】

- ✳️日本語学習支援ボランティア講座(7月、1月)
- ✳️ボランティアの集い(3月)

【民間国際交流助成事業】

- ✳️民間国際交流団体助成(随時)

【外国語基礎会話講座事業】

- ✳️英語基礎会話講座(10月)
- ✳️フランス語基礎会話講座(10月)
- ✳️韓国語基礎会話講座(1月)
- ✳️ドイツ語基礎会話講座(1月)

【海外事情紹介事業】

- ✳️海外研修派遣団員の報告会(12月)

【国際相互理解事業】

- ✳️事業記録写真等展示(海外紹介、事業紹介)(随時)
- ✳️機関誌「フレンドリー」発行(9月、3月)
- ✳️ホームページによる広報(<https://www.i-oiea.jp>)

【多文化共生事業】

- ✳️地域在住外国人の日本語学習支援
 - ・ボランティアによるマンツーマン方式日本語学習支援(通年)
 - ・にほんごおしゃべりルーム(通年)
 - ・地域在住外国人のための日本語教室(年3期開講)
 - ・やさしい日本語講座
 - ・外国人児童プレスクール(大垣市受託事業)
- ✳️相談窓口開設
 - ・相談窓口開設(ポルトガル語、中国語、英語)(通年)
 - ・行政書士による行政手続き相談(毎月第1日曜日)
 - ・ポルトガル語によるこころの相談(毎月第2日曜日)
 - ・弁護士による法律相談(法テラス岐阜共催)(毎月第4日曜日)
- ✳️地域在住外国人のための行事・講座
 - ・和服体験(通年)
 - ・浴衣体験(8月)
 - ・神輿体験(10月)
- ✳️ブラジル人子弟日本語学習支援事業
 - ・日本語指導者派遣(通年)

日本語学習支援ボランティア募集!

地域に在住する外国人の方が一番困っているのは、日本語がわからないことです。当協会では、年間を通して大垣地域に暮らす外国人の方への日本語学習支援を行っており、その学習を支援して下さるボランティアの方を随時募集しています。資格等は不要、また高校生以上であれば年齢制限はありません。見学も可能ですので、興味をお持ちの方は、ぜひお問合せください。



大垣市在住外国人の国籍別人数表

総数:6,956(国籍数:51)
前号(令和7年9月号)との比較 363人増

	令和8年2月末	前号(令和7年9月号)8月末人数	前号(令和7年9月号)との比較
ブラジル	2,198	2,164	34
中国	1,157	1,135	22
ベトナム	860	886	-26
フィリピン	826	744	82
ネパール	352	276	76
その他	1,563	1,388	175
合計	6,956	6,593	363

総人口に占める割合 4.5%

編集後記

令和7年度の受入は、ドイツ・シュツットガルト市の学生訪問団の1件でした。その様子を表紙に掲載しました。日本の伝統文化体験、ホストファミリーとの生活を通じて、日本の魅力一杯持って帰国されたことが窺えます。

ベルギー・ナミュール市へ派遣された生徒さんは、中高一貫校の訪問や、ユネスコ無形文化遺産になっている地域の伝統、竹馬合戦のお祭りが見学出来てよかったですね。宮殿か寺院のような校舎は、さすがベルギーですね。

オレゴン州ビーバートン市、ユージーン市高校生派遣では、アメリカの文化、

価値観を体験し学んだことが、将来にいかされることを願っています。

残念なことに、中国・邯鄲市への派遣・受入事業が中止になりました。2月6日(日本時間7日未明)からイタリアでミラノ・コルティナ冬季オリンピック、3月6日からパラリンピックが開催されました。スポーツの祭典が、感動的でフレンドリーな大会になりました。

フレンドリー No.101

編集／公益財団法人 大垣国際交流協会 広報委員会

〒503-0911 大垣市室本町5丁目51番地

スイトピアセンター学習館2階

TEL(0584)82-2311 FAX(0584)82-2314

<https://www.i-oiea.jp>

[E-mail] oiea@mb.ginet.or.jp



発行／2026年3月

印刷／サンメッセ株式会社

ホームページQRコード

